

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1494000084
法人名	株式会社ツクイ
事業所名	ツクイ伊勢原高森グループホーム
訪問調査日	2015年1月22日
評価確定日	2015年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494000084	事業の開始年月日	平成21年5月1日	
		指定年月日	平成21年5月1日	
法人名	株式会社ツクイ			
事業所名	ツクイ伊勢原高森グループホーム			
所在地	(259-1114) 神奈川県伊勢原市高森4-13-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者にとって終の棲家として「安全で安心、そして快適かつ自分らしい生活」が営める様、入居者目線に立ったサービスが提供できる様、適宜業務改善に努めると共に、ご家族様にとって自分のご家族（ご入居者）を安心して、預けて下さることにより、ご家族の日常のご生活に心のゆとり（介護解放）ができる様、レスパイトケアの観点に立った、ご家族への配慮（適宜情報提供等）に力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成27年1月22日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①グループホームツクイ伊勢原高森の経営母体は、株式会社ツクイです。同社は在宅介護事業および、有料老人ホーム事業を全国に亘って500を超える事業所を展開しています。在宅介護事業の一環として展開しているグループ・ホームも全国で33カ所に及んでいます。この事業所は小田急愛甲石田駅から循環バスに乗り、「高森4丁目」で下車、徒歩1分の住宅団地の1画にあります。和40年代に開発された団地で、住民の高齢化も進む中で、地域との連携を強化し、地域密着・地域貢献に努めています。

②法人はその基本的な方針を、理念、行動規範及び、社訓に示しており、理念である「地域に根付いた真心のこもったサービスを提供し、誠意ある行動で責任を持ってお客様と社会に貢献する」を実践するべく、毎週金曜日のクリーンアップ活動を通じた地域貢献、「職員が利用者一人ひとりを把握し、利用者がゆったりと自分のペースで過ごしている」状況、の実現を図っています。

③職員の教育については、法人が統括し、事業所が年間計画に従って計画的に研修を進める仕組みを有しています。内部研修の一環として、「身体拘束廃止」や「非常災害への対応」などの個別テーマを、委員会的に取り上げて情報共有する場も設定されています。また、日常的には、ケアマネージャーを中心に、カンファレンス等の場に時間は短時間でも、計画に沿った研修・指導の機会を設けています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ツクイ伊勢原高森グループホーム
ユニット名	つくし

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット別に基本理念を職員の意見を基に作成揭示し、各ユニットの職員の行動規範としている	法人の基本的な方針は、理念、行動規範及び、社訓に示されており、前二者は揭示が主体ですが、顧客重視／個人尊重／チームワークを旨とする社訓を毎日唱和して徹底を図っています。また、ユニットごとにも理念を策定し、月1回のカンファレンス時には、理念の実践について話し合っています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週金曜日開催のクリーンアップ活動や納涼祭の開催、自治会行事への参加、近隣住民への介護相談窓口、駐車場の無料開放等日常的に交流している	町内会に加わり、町内会が行うミニサロン、各種行事に参加しています。事業所が主催する納涼祭、敬老会などには地域の方々の参加を得ています。さらに、法人の方針として実施している毎週金曜日のクリーンアップ活動には職員、利用者も行動を共にします。事業所の駐車場も開放し、そのスペースで近隣の方々との交流も盛んです。その他、ボランティア、小・中学生の体験学習の受入れも積極的に行なっています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民への介護相談窓口の設置やAED・車いすの無料貸し出し等地域貢献に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を参考に内部協議しサービス向上に活かすため、職員との検討の場を適宜設けている	運営推進会議は2か月に1回開催し、市役所の担当者、地域包括支援センター、民生委員をはじめ、利用者のご家族も多く参加しています。民生委員が地域との窓口となって、防災体制づくりなどのパイプ役を果たしています。会議のテーマは多様で、利用者のご家族からも多くの意見が出され、双方向の議論がなされ、事業所の運営に有効に機能しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに伊勢原市役所担当課の職員がおり、2ヶ月毎の会議出席の場及び適宜市役所に出向き相談助言等をいただく機会も設けている	運営推進会議には市役所の担当者、地域包括センター職員毎回出席し、入居状況等を含めて情報共有を図ると共に、適切な指導助言を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修にも「身体拘束廃止」の研修を盛り込み、その知識を全職員で共有すると共に、定期的に身体拘束廃止委員会の場を設け、運営管理を行っている	内部研修に計画的に「身体拘束廃止」の研修を含めると共に、定期的に身体拘束廃止委員会の場を設けて、徹底を図っています。また、職員の望ましくない行動に対しては、言葉による拘束も含めて、常時、その場で注意することにして、実践しています。ご家族の了解を得て、ユニット毎の出入り口はオートロックにしていますが、職員の見守りにより、門扉の施錠はしていません。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の内部研修にも「高齢者虐待防止」の研修を盛り込み、その知識を全職員で共有すると共に、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を職員へ配布し、職務意識向上に努めると共に、にマニュアルとして職員がいつでも閲覧できる様常備している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度ご利用者や家族に十分な説明を行い同意を得ている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、開催案内の返信用出欠確認票にも意見欄を設け広く意見を聴取すると共に必要時には全体ミーティングを開催して運営に反映できる様努めている	基本的にはご家族の来訪時、状況報告（毎月）、電話、介護計画更新時に要望・意見を伺っています。運営推進会議には全員に案内を出し、誰でも自由に出席して意見を言えるようにしています。その際の開催案内の返信用出欠確認票には意見欄を設け、広く意見を聴取する工夫をしています。意見の中で検討が必要なものについては、全体ミーティングを開催して運営に反映できるよう努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやカンファレンス時に広く職員の意見を聴取できる場を設け、運営改善に繋げる様努めている	職員は管理者や計画作成担当と日常的に会話を通じて話し合える関係が築かれていて、管理者や計画作成担当は意見要望などを聞き、運営に反映させています。また、全体ミーティングやカンファレンス時にも、広く職員の意見を聴取できる場を設け、運営改善に繋げるよう努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の面談の場を適宜設け、各職員のモチベーションの方向性を探り、又管理者/部下の立場の違いに関係なく平等に接することにより、本音を聞き出せる様に努めると共に、希望を与える方向性での職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や定期的な外部研修派遣等により職員の能力向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	周辺同業他社の管理職が毎月1度、親睦会を開催しており、恒常的に参加することにより、情報収集や意見交換を行い、同業他社の優れている部分を自事業所へフィードバックできる様努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が中心となり、要望等を広く聴取し、カンファレンスにより全職員で共有の上、本人の安心確保に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に同じ→又随時本人の心理面も含めた状況をご家族とも共有できる様、計画作成担当者が窓口となってご家族との連絡を密にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回、アセス時から継続して必要な支援を随時考察し全職員で共有の上、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が認知症であることを前提に認知症ケアに関する内部研修や接遇に関する研修を通じて、「入居者と職員の共同生活」を目指している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事開催時にご家族に参加のお誘いをしている また面会時にはご家族・ご利用者と散歩に出掛けられます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記に同じく、入居前に関わっていた民生委員やご友人等にも広く来館を促し関係が途切れることなく続けられる方向性に努めている また地域で開催されているサロンに参加し馴染みの関係を続けている。	利用者は近隣の方が多いこともあり、近くにある公民館で月に1回開催されるミニサロンに参加することで、馴染みの人たちとの関係を保っています。また、ご家族と共に、食事、墓参、初詣等に出かけられるよう支援しています。さらに、入居前に関わっていた民生委員や友人等にも来館を促し、関係が途切れることなく続けられるよう支援に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出行事やレク活動/日常作業での入居者の役割分担を通じて広く入居者間での交流ができる様努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去のサービス終了者は殆どがターミナル状態となり、転院先等でご逝去されており、趣旨が異なる為今後左記の様なケースがあった場合は相談・支援に努めていきたい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	適宜カンファレンスを開催し、末端で触れている介護職員の意見を参考に把握に努めている	介護の現場で日常的に利用者と接している介護職員の意見を重視し、利用者一人ひとりの希望や意向に気づいた時には、計画作成担当のレター・ボックスにメモを提出するような仕組みを運営して、希望・意向の把握に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記にプラスして、初回アセス以降も適宜家族からも報提供/確認を行い把握に努め、サービスに反映できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記カンファレンスの他、毎日の申し送り時にもその部分の「報告」を義務化し、広く現状の把握ができる様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、職員からの日常ケアの中からフィードバックされた個々の入居者の状況（情報）を把握し、適宜ケアの在り方について全員で協議の上現状に即したケア計画の立案に努めている	短期：3ヶ月、長期：1年ごとの定期計画見直しを基本としていますが、必要都度のモニタリング、計画見直しも重要視しています。介護計画の策定に当たっては、計画作成担当者が中心となり、職員からの日常の介護活動の中からフィードバックされた利用者一人ひとりの状況（情報）を把握し、適宜介護の在り方について職員全員で協議の上、現状に即した介護計画の立案をするよう努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記に同じ（個別記録は日々全職員で共有中）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	上記に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方が今必要としている事や楽しみを見つけ本人に寄り添いながら日々の暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	← 協力医療機関も含め、入居前の主治医とも連携しながら、本人/家族の希望を大切にした医療連携に努めている	利用者本人とご家族に相談して、往診医を決めています。現時点でかかりつけ医を選択している利用者は1名です。内科の往診医は往診専門の医療機関で、医師、看護師、薬剤師が週に1回往診しています。また、24時間対応体制をとっています。希望により歯科医は週1回の往診があり、看護師には週に2回巡回してもらっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	← その様に行っている（申し送りノートや個人ケア記録も媒介として活用しながら）		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	← 協力医療機関の往診医のサポートを受けて地域の医療機関との関係性作りに努めている また早期退院して頂き施設内で生活リハビリを行い逸早い回復に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、ターミナル時の対応に備えているが、開所以来「看取り」の実績は無し	開所以来「看取り」の実績はありませんが、入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、ターミナル時の対応に備えています。また、医療連携体制も整え、内部研修を開始するべく準備しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修に緊急時の対応に関する研修を位置付けると共に、提携訪問看護ステーションとのオンコール体制の確立、緊急連絡先等の掲示により常に実践に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修に非常災害時の対応に関する研修を位置付けると共に、年2回の避難訓練の実施により職員訓練を行っているが、地域との協力体制の確立は今後の課題である	消防署、近隣住民との連携は今後の課題と認識しつつ、非常時、災害時の対応を内部研修に位置付けると共に、年2回の避難訓練を行っています。スプリンクラーを備え、消防署への緊急電話を設置していますが、消防署との連携強化の中で、活用を図ろうとしています。災害に備えた備蓄は、3日分の水と食料を整え、地域への提供も考慮しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時研修に接遇マナー研修を位置付けると共に内部研修として「プライバシー保護」の研修も盛り込む等、職員の接遇に関する職務意識向上に常時気を配っている	法人では入社時研修に、接遇マナーを位置付けると共に、事業所の内部研修として「プライバシー保護」の研修も盛り込む等、職員の接遇に関する意識向上に常時気を配っています。日々の会話や実際の介護の場面に於いても、親しみと利用者の人格を尊重した話しかけを持って、支援を行なっています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との信頼関係構築の一環として常に傾聴と共感の姿勢で接している。また入居者にお聞きしてから次の行動をおこなっている。職務意識向上を目指して朝礼等で常時促しを行っている	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	方向性として全職員で共有できる様、申し送り時やカンファレンス/ミーティングに促し徹底できる様努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	方向性として全職員で共有できる様、申し送り時やカンファレンス/ミーティングに促し徹底できる様努めている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	← 平均要介護3.5と現入居者は重度者が多く中々準備/片づけを一緒にできるレベルの方が少ない中、できる方には一緒に手伝っていただいております。社会貢献（コミュニティー貢献）によるアイデンティティ確立を少しでも味わっていただける様努めている	食材提供会社の栄養士が作成するメニューに従い、毎日食材が提供され、調理や配膳、後片付けなどができる範囲で利用者の手伝いを得つつ、職員が担当しています。食事時には職員も一緒にテーブルを囲んでいます。また、行事食、誕生日食など、変化をもたせることにも心掛けています。外食も利用者個別に、ファミリーレストランなどで対応しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケア記録により日々の摂取量を全員で把握し、脱水症回避や栄養不足回避に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、記録に残すと共に、協力医療歯科医の協力により週1回の口腔ケア（チェック）も実施中→口腔体操と併用しながら長期的な体調管理の観点からも咀嚼/嚥下機能維持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人ケア記録により日々の排泄量や排泄パターンを全員で把握し、尿意のない方にとっては声かけによる誘導等により自立に向けた支援に努めている	個人の介護記録により日々の排泄量や排泄パターンを職員全員で把握し、尿意のない方の場合には声かけによる誘導等により自立に向けた支援に努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じた予防に取り組むべく、日々の申し送りの中で、状態を把握し水分摂取量調整や運動への働きかけを行う様努めていると共に、協力医療機関や看護師からの助言もフィードバックしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	← その様に行っている（基本、曜日固定はせず、本人のその日の状態や希望も勘案し、週2回以上の入浴の機会を与える事を大事にしている	最低、週に2回、午前中の中の入浴を基本として、利用者の希望により、毎日でも入浴できるよう対応しています。菖蒲湯、柚子湯など季節的な工夫、入浴剤の利用も講じています。同性介助も希望に応じています。日常的な信頼関係をベースに、入浴を拒否する利用者にも“入浴が楽しい”と感ずることができるよう工夫（場合によっては担当を変える）をし、対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の申し送りを通してその日の状態を把握し適宜休息や睡眠ができる様支援している→昼夜逆転傾向が顕著な場合は「日光療法」により体内時計の復活を目指す方向性でケアに当たっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	← 薬は薬局をお願いして全て一包化及び薬カレンダーにて管理、かつ誤薬事故防止の観点からは服薬時に2人の職員によるダブルチェックを実施中→又個人ファイル内に個々の		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初回、アセス時から継続して、嗜好、楽しみ事等も観察し、カンファレンスや申し送りの中を通して、全職員で方向性を協議/共有し支援できる様努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で開催されているミニサロンや外出・ドライブなど出来る限り支援している	近隣の公民館で開かれるミニサロン（1回/月）、グリーン活動（1回/週）への参加をはじめ、車いすの利用者も含めて、散歩にはほぼ毎日出かけています。厚木市の「防災の丘公園」への遠出時には、多くの利用者が参加し、動物や子ども達との触れ合いを楽しみました。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社内規定上、ホーム側では金銭管理はできない為、入居時にご家族と協議/同意の上で本人責任にて所持や使える様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	← この部分は自由に行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れるべく、装飾等も定期的に変えるなど努めている	共用フロアは、利用者、職員の趣味の作品（切り絵や習字など）、誕生日などの行事・ミニ旅行時の写真集などが飾られており、穏やかで、家庭的な雰囲気が出されています。庭園では利用者が職員と共に草取り、野菜の栽培などを楽しんでいます。また、ご家族が利用者と一緒に花の苗を買いに行ったり、花植えをするなどの空間も用意されています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や事務所の解放、敷地内にベンチ設置、敷地の解放等思い思いに過ごせる様努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具や装飾など本人/家族の希望で自由にできる様にして頂いて居る	居室の備付はシンプルで、エアコンとクローゼット、カーテンが配備され、基本的には利用者が馴染み、使い慣れた家具、備品を持ち込む仕様になっています。これらをご家族と一緒に配置を考えると共に、趣味の作品、家族や活動時の写真を飾るなど、一人ひとりの生活の好みで居室づくりがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の設計は法人本部の基本設計によるが、入居者の状態に合わせて動線上の確保や「トイレ」の明示等細かな配慮に努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所

ツクイ伊勢原高森グループホーム

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	ツクイ伊勢原高森グループホーム
ユニット名	たけのこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット別に基本理念を職員の意見を基に作成揭示し、各ユニットの職員の行動規範としている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週金曜日開催のクリーンアップ活動や納涼祭の開催、自治会行事への参加、近隣住民への介護相談窓口、駐車場の無料開放等日常的に交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民への介護相談窓口の設置やAED・車いすの無料貸し出し等地域貢献に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を参考に内部協議しサービス向上に活かすため、職員との検討の場を適宜設けている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに伊勢原市役所担当課の職員がおり、2ヶ月毎の会議出席の場及び適宜市役所に出向き相談助言等をいただく機会も設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修にも「身体拘束廃止」の研修を盛り込み、その知識を全職員で共有すると共に、定期的に身体拘束廃止委員会の場を設け、運営管理を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の内部研修にも「高齢者虐待防止」の研修を盛り込み、その知識を全職員で共有すると共に、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を職員へ配布し、職務意識向上に努めると共に、にマニュアルとして職員がいつでも閲覧できる様常備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度ご利用者や家族に十分な説明を行い同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、開催案内の返信用出欠確認票にも意見欄を設け広く意見を聴取すると共に必要時には全体ミーティングを開催して運営に反映できる様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやカンファレンス時に広く職員の意見を聴取できる場を設け、運営改善に繋げる様努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の面談の場を適宜設け、各職員のモチベーションの方向性を探り、又管理者/部下の立場の違いに関係なく平等に接することにより、本音を聞き出せる様に努めると共に、希望を与える方向性での職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や定期的な外部研修派遣等により職員の能力向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	周辺同業他社の管理職が毎月1度、親睦会を開催しており、恒常的に参加することにより、情報収集や意見交換を行い、同業他社の優れている部分を自事業所へフィードバックできる様努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が中心となり、要望等を広く聴取し、カンファレンスにより全職員で共有の上、本人の安心確保に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に同じ→又随時本人の心理面も含めた状況をご家族とも共有できる様、計画作成担当者が窓口となってご家族との連絡を密にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回、アセス時から継続して必要な支援を随時考察し全職員で共有の上、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が認知症であることを前提に認知症ケアに関する内部研修や接遇に関する研修を通じて、「入居者と職員の共同生活」を目指している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事開催時にご家族に参加のお誘いをしている また面会時にはご家族・ご利用者と散歩に出掛けられます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記に同じく、入居前に関わっていた民生委員やご友人等にも広く来館を促し関係が途切れることなく続けられる方向性に努めている また地域で開催されているサロンに参加し馴染みの関係を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出行事やレク活動/日常作業での入居者の役割分担を通じて広く入居者間での交流ができる様努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去のサービス終了者は殆どがターミナル状態となり、転院先等でご逝去されており、趣旨が異なる為今後左記の様なケースがあった場合は相談・支援に努めていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	適宜カンファレンスを開催し、末端で触れている介護職員の意見を参考に把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記にプラスして、初回アセス以降も適宜家族からも報提供/確認を行い把握に努め、サービスに反映できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記カンファレンスの他、毎日の申し送り時にもその部分の「報告」を義務化し、広く現状の把握ができる様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、職員からの日常ケアの中からフィードバックされた個々の入居者の状況（情報）を把握し、適宜ケアの在り方について全員で協議の上現状に即したケア計画の立案に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記に同じ（個別記録は日々全職員で共有中）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	上記に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方が今必要としている事や楽しみを見つけ本人に寄り添いながら日々の暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	← 協力医療機関も含め、入居前の主治医とも連携しながら、本人/家族の希望を大切にした医療連携に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	← その様に行っている（申し送りノートや個人ケア記録も媒介として活用しながら）		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	← 協力医療機関の往診医のサポートを受けて地域の医療機関との関係性作りに努めている また早期退院して頂き施設内で生活リハビリを行い逸早い回復に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、ターミナル時の対応に備えているが、開所以来「看取り」の実績は無し		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修に緊急時の対応に関する研修を位置付けると共に、提携訪問看護ステーションとのオンコール体制の確立、緊急連絡先等の掲示により常に実践に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修に非常災害時の対応に関する研修を位置付けると共に、年2回の避難訓練の実施により職員訓練を行っているが、地域との協力体制の確立は今後の課題である		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時研修に接遇マナー研修を位置付けると共に内部研修として「プライバシー保護」の研修も盛り込む等、職員の接遇に関する職務意識向上に常時気を配っている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との信頼関係構築の一環として常に傾聴と共感の姿勢で接している。また入居者にお聞きしてから次の行動をおこなっている。職務意識向上を目指して朝礼等で常時促しを行っている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	方向性として全職員で共有できる様、申し送り時やカンファレンス/ミーティングに促し徹底できる様努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	方向性として全職員で共有できる様、申し送り時やカンファレンス/ミーティングに促し徹底できる様努めている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	← 平均要介護3.5と現入居者は重度者が多く中々準備/片づけを一緒にできるレベルの方が少ない中、できる方には一緒に手伝っていただいております、社会貢献（コミュニティー貢献）によるアイデンティティ確立を少しでも味わっていただける様努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケア記録により日々の摂取量を全員で把握し、脱水症回避や栄養不足回避に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、記録に残すと共に、協力医療歯科医の協力により週1回の口腔ケア（チェック）も実施中→口腔体操と併用しながら長期的な体調管理の観点からも咀嚼/嚥下機能維持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人ケア記録により日々の排泄量や排泄パターンを全員で把握し、尿意のない方にあっては声かけによる誘導等により自立に向けた支援に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じた予防に取り組むべく、日々の申し送りの中で、状態を把握し水分摂取量調整や運動への働きかけを行う様努めていると共に、協力医療機関や看護師からの助言もフィードバックしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	← その様に行っている（基本、曜日固定はせず、本人のその日の状態や希望も勘案し、週2回以上の入浴の機会を与える事を大事にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の申し送りを通してその日の状態を把握し適宜休息や睡眠ができる様支援している→昼夜逆転傾向が顕著な場合は「日光療法」により体内時計の復活を目指す方向性でケアに当たっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	← 薬は薬局をお願いして全て一包化及び薬カレンダーにて管理、かつ誤薬事故防止の観点からは服薬時に2人の職員によるダブルチェックを実施中→又個人ファイル内に個々の		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初回、アセス時から継続して、嗜好、楽しみ事等も観察し、カンファレンスや申し送りの中を通して、全職員で方向性を協議/共有し支援できる様努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で開催されているミニサロンや外出・ドライブなど出来る限り支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社内規定上、ホーム側では金銭管理はできない為、入居時にご家族と協議/同意の上で本人責任にて所持や使える様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	← この部分は自由に行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れるべく、装飾等も定期的に変えるなど努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や事務所の解放、敷地内にベンチ設置、敷地の解放等思い思いに過ごせる様努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具や装飾など本人/家族の希望で自由にできる様にして頂いて居る		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の設計は法人本部の基本設計によるが、入居者の状態に合わせて動線上の確保や「トイレ」の明示等細かな配慮に努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所

ツクイ伊勢原高森グループホーム

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。